

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	東池袋第一保育園
施設所在地	東京都豊島区東池袋2-60-19
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

音あそびと表現

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

4歳児クラスの子どもたちは個性豊かで元気いっぱいである一方、友達とのコミュニケーションでは言葉よりも先に手が出てしまったり、激しい言葉と泣き声が響き喧嘩が絶えないクラス。担任の話にも、なかなか耳を傾けることができず、園全体でどうしようか…と話し合い、子どもたちは何をしている時が楽しそうだろうと考えた時、各クラスにタンバリンや鈴、太鼓などの楽器が置いてあり、日常の遊びの中で楽器に触れており、楽器遊びの時はみんな笑顔で音を出すことに集中している。

言葉を交わさなくても笑顔でコミュニケーションが取れているということに気づき音遊びをテーマにすくわくに参加することを決めた。また、担任はバイオリンを弾くことができるため、担任への憧れや尊敬の気持ちをもって話に耳を傾けてほしいという願いも含まれている。また、毎年後期保護者会では発表会もあるため、苦手な劇遊びなどよりは自信をもってできる楽器遊びで表現することを楽しんでほしいという理由から音遊びと表現になった。

## 2. 活動スケジュール

6-7月 日常の中で楽器遊び

7月31日 鈴木楽器さんとコラボイベント 演奏会わくわくひろば 担任とスタッフ参加型

8-9月 日常の中で音遊び、表現 音の違いを知る

9月29日 鈴木楽器さんとコラボイベント 演奏会わくわくひろば 担任とスタッフ参加型

10-11月 クラスで演奏会を楽しむ

11月25日 鈴木楽器さん 出張 おとのひろば

12月クリスマス会 演奏会(職員)

1月 保護者会と発表会

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

①問いを考える

「音にはどんな音があるのか?」「好きな音」や「苦手な音」を問いとして設定し、子どもの考えや、イメージを聞き出す。

②環境をデザインする

環境設定として、鈴木楽器さんとのコラボイベント「わくわくコンサート(演奏料)」を2回と、子どもたちとのワークショップ「音のひろば(講師料)」を1回開催し、子どもたちの興味がありそうな「なかよしリズム」「トーンチャイム」「キッズジャンベ」「ミュージックパッド」「鈴」「ニノハンドドラム」「トゥッポロ」「フルーツマラカス」「カスタネット」「サークルベル」「ベルハーモニー(卓上タイプ)」「ベルハーモニー(ハンドタイプ)」「電子ピアノ」を購入し、好きな音で表現できるようにする。

③探究活動を実施し、記録する

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

<p>○音について考える</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生活の中でどんな音があるか尋ねてみると「電子レンジの音」「雨の音」「時計のザッザッ（秒針）の音」等、様々な音の回答が出てきた。他にも好きな音や苦手な音についても尋ねた。</li></ul> <p>○鈴木楽器さんとコラボイベント 演奏会わくわくひろば(1回目)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「Let it go」「アンダー・ザ・シー」「トトロ」「さんぽ」を4歳児の担任がヴァイオリンを弾いてケンハーモーションさんとコラボレーションをした。</li><li>・「星に願いを」では園長、主任、幼児担任（4名）がトーンチャイムを使用し、好きなタイミングで音を鳴らした。</li></ul> <p>○新しい楽器</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・保育園に新しい楽器が届いた為、ホールで音楽遊びを行う。</li><li>・初めに、楽器が出ている時にはホールの中を走らないという安全面の約束事を伝えてからジャンベを出した。</li><li>・大中小（2セット）と低音の4種類のジャンベを出し、扱い方や叩く位置によって異なる音の出方を伝え、自由に叩いてもらった。</li><li>・音を出す楽しさを経験してから、言葉に合わせて音を出すゲームを行なう。 （例）「は・こ・べ」なら3回、「ステーキ」なら「タタータ」など</li><li>・リズムに慣れてきたところで、ピアノを弾くからピアノの音をよく聞いて、綺麗に演奏してみようという提案すると「ちょうちょ」のリズムに合わせて演奏していた。</li><li>・ミュージックパッドでは音あてゲームや好きな音探しを行ない、その後は自由に鳴らす時間にしたら、皆で協力してミュージックパッドを並べて1本道を作っていた。</li></ul> <p>○鈴木楽器さんとコラボイベント 演奏会わくわくひろば(2回目)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・1回目と同じ曲で演奏会を行なう。</li></ul> <p>○なかよしリズム</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・様々な楽器が収納されている「なかよしリズム」を廊下に設置することで、日々の室内遊びの際に、自由に楽器を取りに行き、音を楽しむことができるようにした。</li></ul> <p>○鈴木楽器さん 出張 おとのひろば</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・3名の方が来園し、繰り返し遊んできた「なかよしリズム」の使い方や展開の仕方、トーンチャイムでの音のキャッチボールを覚えてもらった。</li></ul> <p>○クリスマス会 演奏会（職員）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・職員（複数名）の演奏でクリスマスの歌（赤鼻のトナカイ・あわてんぼうのサンタクロース）をうたった。</li></ul> <p>○発表会</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・BGMに合わせたトーンチャイムの演奏（2曲）</li><li>・「やまの音楽家」を子どもたちの好きな楽器（なかよしリズム・ジャンベ等）+担任のヴァイオリンで演奏する</li></ul> <p>○電子ピアノ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ホールにあるアップライトのピアノに合わせて合奏遊びを繰り返していく内に、ピアノにも興味を示し、弾いてみたいという児が複数名いた。保育室でもピアノに触れる機会を作りたいという担任の気持ちから、電子ピアノを追加で購入した。</li></ul>
---

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

#### （活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

<p>○音について考える</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・好きな音や苦手な音について話し合うと救急車の音が好きな児もいれば、大きな音だから苦手という児もいた。感じ方はそれぞれ異なる為、何が正解で何が間違っているという事は無いと伝え、様々な意見が出やすいように話し合いを進めた。</li><li>・好きなように楽器を鳴らしてみようという提案すると、鈴、タンバリン、カステネットを思い切り強く叩いたり鳴らす児が多かった為、楽器の扱い方について伝えた。</li></ul> <p>○鈴木楽器さんとコラボイベント 演奏会わくわくひろば(1回目)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・始めに、ケンハーモーションさん主体で、皆で心一つに手拍子をする最初はバラバラだったが、次第に音楽に合わせて手拍子が出来るようになっていた。</li><li>・4歳児担任がヴァイオリンを弾いてコラボレーションすることで、担任に対して憧れの言葉や、自分もやってみたいという意欲が繋がっていた。</li></ul> <p>○新しい楽器（ジャンベ、マラカス、ミュージックパッド）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ピアノに合わせて音を奏でる活動を行ったことで、一体感のある心地良い音を感じることができていた。自由に鳴らす楽しさと気持ちを合わせて演奏する楽しさの両方を経験できるようにしていく。</li><li>・1つの楽器を友だちと一緒に叩いて楽しむ姿もある一方で、「勝手にやらないで」「ぶつかったよ」と友だちとの上手いかわらないやりとりも起こっていた。こうしたやりとりが友だちの気持ちを理解することが、コミュニケーションの取り方を知っていくうえで大切になっていくと感じた。</li></ul> <p>○鈴木楽器さんとコラボイベント 演奏会わくわくひろば(2回目)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・同じプログラムでの演奏会だった為、1回目より大きな声で歌をうたったり、リズムに合わせて手拍子や足踏みでダイナミックに表現する姿が見られた。</li></ul> <p>○なかよしリズム</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・室内に常設してある楽器の他にも自由に使える楽器を廊下に設置したことで、日々の室内遊びでも活発に使用する姿が見られ、自分たちで「何と言ったでしょう?」とクイズを出し合ったり、リズムに合わせて自由に鳴らして楽しんでた。</li></ul> <p>○鈴木楽器さん 出張 おとのひろば</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・初めはリズムもなくただ音を鳴らしていたが、次第にリズムに乗って楽しんでた。</li></ul> <p>友だちとの一対一の「音のキャッチボール」では「音をイメージする」ということを子どもたちなりに考えながら行い、音が自分に来たタイミングで相手に返すことができていた。</p> <p>○音のキャッチボールから気持ちの表現</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・おとのひろばで教えてもらったトーンチャイムを用いた「音のキャッチボール」を普段の保育で取り入れ、目では見られない「音」を感じて感じ取り、優しく投げた時と、強く投げた時の受け取り方を感じ、どちらの方が心地よかったか尋ねると、全員が優しく投げられた時と答えていた為、言葉も同じ、伝え方（投げ方）を変えると伝わり方も変わる事を伝えるとハッと気が付く様子が見られた。そこから、自分の気持ちを表現しようという様々な楽器を用いて「今僕はお腹が空いているからこんな音」「優しい音はこうかな?」「怒っているときはこうだね」と表現することを楽しんでた。</li></ul> <p>○クリスマス会 ミニ演奏会（職員）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・職員同士で演奏している担任の姿を見て、「私たちもすみさんと演奏がしたい」とリクエストが出た為、1月24日に行なう発表会では担任と一緒に演奏する事にした。</li></ul> <p>○発表会</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・発表会に向けて担任と一緒に演奏する曲を決める際に、朝の会で歌っていた「山の音楽家」に担任が弾くヴァイオリンも入っている為、その曲がいいと子どもたちからリクエストがあった。</li><li>・他にも子どもたちが気に入っていたトーンチャイムでは鈴木楽器さんに用意していただいたBGMのCDに合わせて、自分の好きなタイミングで鳴らすというもの。BGMに合わせて綺麗な音を表現するにはどのように鳴らすと良いかなど、子どもたちと一緒に考えたり、工夫を試しながら練習していたが、本番は緊張により、練習通りとはいかなかった。それでも、終わった後の子どもたちの表情は晴々としていた。</li></ul> <p>○電子ピアノ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・電子ピアノが届くと、たくさんの児が興味を持っており、順番を守りながら自由に演奏する姿が見られた。習い事でピアノを習っている児がメロディーを奏でると見れば真似て友だちと連弾する姿も見られるようになった為、来年度は鍵盤ハーモニカ等も取り入れ、今後も音楽遊びを充実させていきたい。</li></ul>
--



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

1年かけて、音楽遊びを楽しんだことで、楽器が以前よりも身近な存在になり、室内の自由遊びの際に自ら楽器を出して遊ぶ姿がよく見られるようになった。

以前は、物に対する扱い方が少し雑な部分があったが、楽器をなぜ大切に扱わないといけないのかについて話をしたり、楽器を出している時にはホールを走らないことや、楽器を丁寧に扱うことを繰り返し伝えて行くうちに、楽器だけではなく玩具や絵本等の身近な物も大切に扱う姿が少しずつみられている。

担任の話にも、なかなか耳を傾けることができていなかった点では、担任がプロの演奏家と肩を並べて演奏したことで、「すごい!」「かっこいい!」と尊敬の気持ちを抱くようになったことから、担任の話に耳を傾けるようになり、クラスとしてのまとまりも出てきた。

これまで、友だちとの関わりにおいて強い言葉が出やすい、喧嘩が多いといった姿が見られたが、すくわくを通して楽器遊びを行なう中で、「きれいな音だね」と相手が嬉しく思うような言葉が自然と出てきて和やかな雰囲気の中で活動に取り組む姿が見られた。

また、今まで新しい活動に対して興味を示さない児が何人かいたが、すくわくの活動・楽器遊びではこれまで触れたことのない楽器に積極的に触れ、音の違いなどを楽しむ姿が見られた。新しいことに挑戦することの楽しさを知るきっかけになったと感じた。

発表会で行なった合奏では、一人ひとりではなく、皆で息を合わせて取り組む活動だった為、普段より友だちへの関心が向いていたように感じた。クラスで1つになり「どのように鳴らすと今よりもっと素敵な音を奏でられるか」「お家の方にどんな姿を見てもらいたいか」と問いかけ、子どもたちで意見を出し合うことで、素晴らしい1つの発表に仕上げることができ、子どもたちの成長に繋がったと感じる。